

# あなたの肺はアスベストにおかされていませんか？

じん肺・アスベスト ニュース No.4 2011年11月 発行

石播東京職場の差別をなくす会 じん肺・アスベスト対策会議

Tel 03-3647-5057 Fax 03-3647-5376

mail cpishikawajima@ybb.ne.jp

## 10月のアスベスト電話相談件数は、70件を超えました！

10月1日、2日に実施されたアスベスト電話相談は、2日以降も相談が寄せられ、71件になっています。NHKニュースで相談先の電話番号が流された影響が大きいのですが、去年の件数よりも大幅に増えています。全国の集約はまだされていませんが、東京地区での相談内容の特徴は次のようになっています（東京の集約内容は裏面の表を参照して下さい）。

- ・相談は、首都圏を中心に、南は鹿児島県から北は秋田県に及び全国から寄せられました
- ・相談者の年齢は60代、70代が多く、全相談件数のそれぞれ21%、37%を占めています
- ・発症している人が多く、中皮腫10%、肺がん6%、胸膜肥厚斑が4%でした
- ・従事していた業種は、建築関係、大工、造船、調理師など多岐にわたっています
- ・健康不安を抱えながら、どうしたらいいのかが分からない人が多くいました
- ・アスベスト被害にどのように対処したら良いのかという質問が多かったです

こうした相談内容は、アスベスト被害の広がりや深刻さを示しています。また、相談者に60代・70代が多いことは、アスベストが多く使用された時期に働き、その被害にあっていること、アスベストは30年、40年後に発症するということが示されています。

アスベスト被害による中皮腫にかかり、余命何カ月と宣告されている人もおり、家族への影響も含め、被害の深刻さを痛感しました。また、労災申請や健康管理手帳取得にあたって行政、企業の対応が悪く、労災認定されなかったり、健康管理手帳が交付されないという人が多い状態です。

NHKニュースで相談先の電話番号を知り、電話したという人が多く、いかに相談先が無かったり、知らなかったり、また、アスベストを使用していた企業が、該当する労働者をフォローしていないかを示しています。そして、アスベストを診断する病院、専門の医師が少ないことも示されました。

## 自分には関係ないと思いませんか？

アスベスト被害は他人事ではなく、被害の広がりや予想されているもとの、検診により体の状態を知り、早期発見による対策が求められています。また、企業、行政の対応は非常に消極的であることから、アスベスト問題の深刻な状態を知らせ、アスベストの危険性を知りながら、使用を容認してきた企業や国の責任を追及する世論を広げることが求められています。

**※自主検診を希望する方は当会の（上記連絡先）まで連絡下さい。診療所の紹介をしております。**